

横須賀市高齢者保健福祉計画(第8期介護保険事業計画) 第4章～第7章進捗管理

自己評価の基準(設定した指標の達成度)		令和3年度	令和4年度	令和5年度
A	90%以上	25.4%	22.5%	
B	70%以上	28.2%	22.5%	
C	60%以上	7.0%	11.3%	
D	60%未満	33.8%	35.2%	
E	評価不能	5.6%	8.5%	
合計		100.0%	100%	

第4章 1 生きがいづくり

(1) 社会参加の促進

①シルバー人材センターへの支援

【シルバー人材センター登録会員数および受注金額】

P19

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録会員数	1,540人	1,630人	1,720人	1,199人	1,196人	
受注金額	646,800千円	684,600千円	722,400千円	497,994千円	493,367千円	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルス感染症流行による活動自粛傾向にあり、登録会員数及び受注金額共に目標達成できなかった。	入会説明会の開催、フリーペーパーへの広告出稿、イベント出展等による広報活動を通じて、登録会員数及び受注件数の増加を図る。

②老人クラブへの助成

【老人クラブ数および会員数】

P19

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
クラブ数	230団体	230団体	230団体	210団体	193団体	
会員数	13,600人	13,600人	13,600人	12,399人	11,110人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルス感染症流行に伴う活動休止や、会員の高齢化に伴う解散があり、補助金申請団体数が減少した。	各クラブ同士の横の連携を強化するため、令和5年度横須賀市老人クラブ連合会への補助を拡充した。横の連携を強めることで、個々のクラブの活動を盛り上げていきたい。

③高齢者生きがいの家への助成

【生きがいの家助成団体数】

P20

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体数	13団体	13団体	13団体	9団体	8団体	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	会員の高齢化に伴う解散があり、補助金申請団体数が減少した。	年々補助申請団体数が減少傾向にあり、令和4年度は会員向けアンケートを実施。令和5年度はアンケート結果を元に活動実態の把握に努めたい。

⑥はつらつシニアパスの発行

【はつらつシニアパス発行枚数】

P20

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
6月分	6,000枚	6,000枚	6,000枚	4,823枚	4,674枚	
12月分	6,000枚	6,000枚	6,000枚	4,730枚	4,668枚	
合計	12,000枚	12,000枚	12,000枚	9,553枚	9,342枚	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値に届いていないものの、目標値のおよそ78%の発行枚数であった。	路線及び運行本数等、利便性の地域差があるため、関係機関と協議することを検討する。

⑦幸齢者(高齢者)健康のつどいの開催

P20

評価と課題	新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり市全域を対象とした大型のイベント1回の開催より、複数の拠点ごとに地域密着型のイベントを複数回開催することへシフトするため、令和4年度をもって廃止とした。
-------	--

(2)居場所づくりと生涯学習

①老人福祉センター・老人憩いの家の運営

【老人福祉センターおよび憩いの家利用者数】

P21

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延べ利用者数	170,000人	170,000人	170,000人	26,164人	27,818人	
実利用者数	4,800人	4,800人	4,800人	1,290人	1,083人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍による利用減、入浴施設・カラオケの休止、一部施設の廃止を行ったため、利用者数が見込みを大きく下回った。	感染防止策を講じ、生きがい講座の充実、併設施設との連携・一体化により利用者数の回復を図りたい。

②コミュニティセンターの運営と「高齢者学級」の実施

P21

評価と課題	行政センター併設のコミュニティセンターにおいて高齢者学級を実施した。応募者数が定員の2倍を超える場合もあり、高齢者講座への関心の強さがうかがえた。令和5年度からコミュニティセンター講座の企画・運営体制を改めるが、今後も実りのある講座を実施していきたい。
-------	--

③生涯学習センターの「市民大学講座」の実施と講師登録

P22

評価と課題	市民大学講座は、新型コロナ以前の水準で開催することが可能となり受講数も復活した。一方、新型コロナをきっかけに活動を休止したサークルや講師については再開する動きが鈍く、講師登録数は微減傾向にある。サークル活動や地域活動へのモチベーション及びきっかけづくりが今後の課題と考えている。
-------	---

第4章 2 健康づくり

(1)生活習慣病の予防と早期発見

①特定健康診査の実施

P24~25

【特定健康診査受診率、受診者数および対象者数】

P25

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	35%	36%	37%	27.3%	22.7%	
受診者数	29,750人	30,600人	31,450人	16,980人	13,657人	
対象者数	85,000人	85,000人	85,000人	62,093人	60,113人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	目標数値には達していないものの、令和5年3月時点の速報値にて前年同時期(令和4年3月時点)の受診率より1.1ポイント上回っている。令和3年度実績について、昨年度の報告時点から数値が動き、確定値は今回報告のものである。	受診率は戻り始めているがコロナ禍以前の受診率は上回っていない状況にあり、依然としてコロナの影響が残っている。勧奨時期を早める、受診勧奨通知を目につきやすい大きさに変更、SMSを活用した受診勧奨を実施した。

②特定保健指導の実施

【特定保健指導実施率、実施者数および対象者数】

P25

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施率	21%	22%	23%	9.1%	0.2%	
実施者数	937人	1,010人	1,085人	155人	3人	
対象者数	4,463人	4,590人	4,718人	1,707人	1,458人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	令和3年度実績について、昨年度の報告時点から数値が動き、確定値は今回報告のものである。例年、5月から9月にかけて数値が動くため令和4年度の数値は令和5年3月時点での速報値となっている。目標数値には大きく届いておらず、実施率向上のため、継続的な対策が必要となっている。	特定保健指導の実施率は依然として低い傾向にある。自宅にいながら指導を受けられる、ICTを活用した保健指導の実施や、民間事業者を活用した保健指導の利用勧奨の実施を行い、前年度よりも保健指導の利用者は増加している。

③後期高齢者健康診査の実施と保健事業の実施検討

P25~26

【後期高齢者健康診査受診率、受診者数および対象者数】

P26

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	25%	26%	27%	20.4%	22.3%	
受診者数	17,066人	18,223人	19,416人	13,690人	15,540人	
対象者数	68,265人	70,088人	71,910人	67,040人	69,658人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	令和3年度と比較すると受診率が2%上昇しており、回復傾向にあると考えるが、コロナ禍前の受診率には届いていない。	これまでも受診勧奨のはがきを送付しているが、受診していただけるような内容について検討していく。

④がん検診等の実施

P26

評価と課題	内容
	令和4年度がん検診は、計画どおり実施した。その結果、令和3年度実績からは回復傾向にある。次年度も引き続き、がん検診等を計画どおり実施していく。

⑤骨密度検診の実施

P26

評価と課題	内容
	令和4年度骨密度検診は、おおむね計画どおり実施した。ポスター掲示等での勧奨を実施した。その結果、令和3年度実績からは回復傾向にある。次年度もポスター掲示や、市HP等での勧奨を引き続き実施していく。

⑥歯周病検診の実施

【歯周病検診受診率】

P26

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
受診率	20%	27%	34%	12.2%	12.8%	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	令和4年度の歯周病検診受診率は12.8%で昨年度より増加したものの、目標値27%は達成できなかったため自己評価はDとした。	令和4年度実施の市民アンケートでは過去1年間に歯科健診を受けた人の割合は52%であり、予防のための受療行動は向上している。受診率向上の目的は、日頃からかかりつけ医を持ち、定期的な受診を促すことであるため今後も引き続き啓発を行っていく。

(2)重症化予防のための取り組み

①生活習慣病重症化予防事業の実施

【対象者に対する勧奨通知送付率】

P27

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
送付率	100%	100%	100%	100%	100%	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	対象者全員への通知を発送した。	今後も対象者全員に送付し、目標値達成を維持するとともに通知の内容が受診へとよりつながりやすいものとなるように検討を継続する。

【医療機関への受診につながった割合】

P27

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	30%	30%	30%	38.4%	26.1%	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	令和3年度実績について、昨年度の報告時点から数値が動き、確定値は今回報告のものである。令和4年度の数値は令和5年3月時点での数値となる。 新型コロナウイルスの影響による受診控えも影響していると考ええる。	健診の数値が一定以上の方には、通知に加えて架電や訪問により医療機関への受診を勧奨している。しかし、日中は不在等の理由により連絡がつかないことが多い。

②慢性腎臓病(CKD)病診連携システム

P28

評価と課題	令和2年度から開始した慢性腎臓病(CKD)が疑われる人に対して、特定健康診査実施機関から腎臓専門医に直接紹介する慢性腎臓病(CKD)病診連携システムは、令和4年度においても滞りなく実施できた。
-------	--

③糖尿病性腎症重症化予防事業の実施

【腎機能の低下が認められた糖尿病治療中の人への事業案内送付率】

P29

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
送付率	100%	100%	100%	100%	100%	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	対象者全員への通知を発送した。	対象者の抽出から事業案内送付まで滞りなく行うことができた。

【プログラムに参加した人の割合】

P29

区分	目標			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	20%	20%	20%	11.4%	12.1%	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	事業対象者99名のうち、プログラムに参加したのは12名で、目標数値には届かなかった。参加者12名は、全員、全6回の指導を完了した。	申込締切までにかかりつけ医への受診間隔が合わない等の理由により参加に至らない対象者も散見された。申込しやすい仕組みについて検討を継続し、参加者数の増加を目指したい。

(3)保健事業と介護予防の一体的な実施

P30~31

評価と課題	令和4年度から事業を開始し、2圏域へ事業を展開した。
-------	----------------------------

(4)歯と口腔の健康づくり

①歯と口の健康づくり教室の実施

P32

評価と課題	R3年度実績 12回・302人 R4年度実績 29回・2215人 コロナ禍で地域活動を中止していたグループが多く実施件数は少なかったものの、Webでの教室開催などの工夫をし実施した。令和5年度は申込みが増えているため、地域に根差した教室運営を効率よく実施し、引き続き歯及び口腔の健康づくりの普及啓発を行う。
-------	--

②オーラルフレイル予防教室の開催

P32

評価と課題	R3年度実績 18回・109人 R4年度実績 36回・265人 新型コロナウイルス感染症の影響で中止、また口腔機能検査の内容を変更して実施せざるを得ない時期もあったが、感染対策を徹底し、舌圧測定、唾液湿潤度検査、舌・口唇運動機能検査など市民がオーラルフレイルを自身のこととして考えられるよう取り組んだ。今後も全身の健康の保持増進及び社会参加を促すために、心身の機能の低下につながるオーラルフレイルの認知度を高めるとともに、引き続き早期発見・予防を普及啓発する。
-------	---

③生活歯援(しえん)プログラム(市民健診プログラム)の実施

P33

評価と課題	令和3年度アンケート回収率:40% 令和4年度アンケート回収率:52% 横須賀市健診センターの健康診査受診者に「歯の健康力アンケート」(生活歯援プログラム)を送付し、希望者に歯科に関する健康観の気づき支援を促した。
-------	--

(5)身近な健康づくりへの支援

①健康づくりのための講演会や教室の実施

P34

評価と課題	新型コロナウイルス感染拡大により講演会は中止せざるを得なかったが、感染状況に合わせて可能な限り教室は実施できた。今後は感染対策に留意しながら実施していく。
-------	---

②地域で健康づくりに取り組んでいる団体等への支援

【健康づくりに取り組む団体の支援数】

P34

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体支援数	6団体	6団体	6団体	-	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	新型コロナウイルス感染対応業務により支援体制が整わなかったため講師派遣はできなかった。	状況に応じて講師派遣を再開する。 また、情報提供を継続実施する。

③シニアリフレッシュ事業の実施

【シニアリフレッシュ利用申請者数および助成枚数】

P34

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用申請者数	2,200人	2,250人	2,300人	1,727人	1,689人	
助成枚数	4,500枚	4,600枚	4,700枚	3,474枚	3,528枚	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	申請者数、助成枚数ともに目標値の75%以上に達した。	申請者数が年々減少している。高齢者の目に留まるような方法での周知が必要。

第5章 1 地域における支え合いの強化

(1)一般介護予防事業の充実

①介護予防普及啓発事業の推進

ア リーフレット等を活用した普及啓発

P36

評価と課題	市や地域包括支援センターで開催する教室や、地域から依頼のあるふれあい地域健康教室や各種イベント開催時に普及啓発活動を実施した。
-------	---

イ WEB介護予防教室の開催

P36

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。引き続き、WEB介護予防教室とともに介護予防DVDの周知を行い、教室等の機会にも活用し普及していきたい。
-------	--

ウ 介護予防普及啓発講演会の開催

【介護予防普及啓発講演会実施回数および参加者数】

P37

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施回数	1回	1回	1回	1回	-	
参加者数	140人	140人	140人	98人	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	令和4年度に組織改正があり、介護予防を含めた健康づくりの普及啓発として、健康増進事業の中で実施したため、本講演会は開催しなかった。	高齢者のみを対象として実施していた「介護予防講演会」ではなく、幅広い年代に向けた「健康づくり講演会」を実施し、早期から総合的な健康づくりや介護予防について関心もてるよう、広く普及啓発を行っていく。 また、高齢者への取り組みとしてフレイルチェック教室や栄養・運動の教室を継続して実施する。

【低栄養改善教室実施回数、定員および参加者数】

P38

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
実施回数	8回	8回	8回	6回	7回	
参加者数	160人	160人	160人	63人	75人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	実施回数は予定数の87.5%の実施だった。コロナの影響で、1コースが中止となった。参加控えや広報よこすかの掲載方法の変更により、参加人数がなかなか増えなかったが、1コースのみ広報よこすかに情報が掲載された際は、参加人数が27人になった。	介護予防教室の情報は、市のホームページに掲載していることを伝えているが、「パソコンやスマートフォンからは、情報を見ることができない」と苦情を受けることが多い。積極的に情報を記載したチラシを配布したり、ウエルシティ内での掲示も行うなど対応を行っている。

【運動機能改善教室実施数、定員および参加者数】

P38

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	8コース	8コース	8コース	8コース	
実参加者数 (延参加者数)	160人 (延480人)	160人 (延480人)	160人 (延480人)	137人 (延373人)	92人 (延251人)	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	計画どおりの実施回数であったが、コロナ禍による参加控えや広報よこすかの掲載方法の変更により参加人数がなかなか増えなかった。	介護予防教室について、市のホームページに掲載しているが、高齢者がそこから情報を得ることはまだ難しい状況。申し込みの少ないコースでは積極的に情報を記載したチラシを配布したり、ウエルシティ内での掲示も行うなど対応を行っている。

②地域介護予防活動支援事業の推進

ア 通いの場の充実

P38~39

【ふれあい地域健康教室開催回数および参加者数】

P39

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	50回	50回	50回	19回	32回	
参加者数	1,500人	1,500人	1,500人	548人	818人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルスの影響により、夏には事業の中止があったりと、目標値の55%程度に留まっている。	次年度は感染対策等も緩和予定のため、活動場所の提供等には影響がないと考えられるため、目標値に近づいていくと思われる。事業についての情報提供を行いながら実施していく。

【地域型介護予防教室開催回数および参加者数】

P39

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	240回	240回	240回	87回	165回	
参加者数	3,600人	3,600人	3,600人	1,229人	2,640人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、目標の約69%の実施ができた。	地域包括支援センターと連携をしながら、地域の通いの場が継続できるよう引き続き支援をする。

イ ボッチャを活用した地域づくり

P39

評価と課題	通いの場にて地域のつながり作りのきっかけとして、ボッチャが有効に活用されている。地域にある身近な地域包括支援センターの全てに配置していることも活用の一助になっていると考えられる。
-------	---

ウ 介護予防サポーターの養成

P39~40

【介護予防サポーター養成者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	30人	30人	30人	15人	23人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	令和4年度は新型コロナウイルス症の感染対策に注意しながら実施できることを増やし、参加者の増加につながった。	今後は、新型コロナウイルスの感染が流行する前に近い状態で事業を実施する可能性が高いが、ニーズや必要性に応じて、オンライン開催等も取り入れつつ現状に合わせた事業の実施を行っていく。

【地域型介護予防サポーター養成者数(地域包括支援センター委託)】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	60人	60人	60人	43人	45人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標の75%の参加であった。地域包括支援センターから依頼があった時は、市のHPで掲載したりSNSで発信するなど、周知に努めた。	養成講座を実施する地域包括支援センターに偏りがみられるが、地域の特性や実情に応じた実施となるので、一律的な実施を求めること難しい。新たな地域で企画をする際には、市は後方支援をしていく。

【介護予防サポーターフォローアップ教室参加者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
参加者数	300人	300人	300人	147人	186人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	新型コロナウイルス感染症対策に留意しながらの実施であったが、目標の62%の参加であった。	介護予防サポーターの活動が地域で継続でき、様々なテーマの研修内容にて実施できるよう企画していく。

エ フレイルサポーターの養成とフレイルチェックの実施

P40~41

【フレイルサポーター養成者数】

P40

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	20人	20人	20人	8人	13人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	フレイルチェック参加者等に、フレイルサポーターが声をかけて養成講座に参加して下さった方が複数いた。コロナの影響もあったが13人まで増やすことができた。	今後も行政だけでなく、フレイルサポーターからも地域等で積極的に情報発信をしていただく。

【フレイルチェック教室実施回数および参加者数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	10コース	12コース	6コース	10コース	
実参加者数 (延参加者数)	200人 (延400人)	250人 (延500人)	300人 (延600人)	89人 (延178人)	129人 (延202人)	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	当初は10コースの予定だったが、フォローアップ教室を1コース多く実施することになり、11コース企画した。しかし、コロナの影響で1コースが中止となり、結局、10コースの実施となった。地域でのフレイルサポーターによる声かけ等により、参加者数は少しずつ増えてきた。	地域でのフレイルサポーターによる声かけ等は継続していただきつつ、フレイルサポーターがやりがいをもち、楽しく活動を継続していけるよう活動支援を今後も続けていく。

③地域リハビリテーション活動支援事業の推進

【地域の通いの場への医療専門職派遣団体数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
派遣団体数	3団体	3団体	3団体	4団体	1団体	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	令和3年度に派遣方法を見直し、団体ごとのニーズに合わせて派遣できる方法に変更したが、コロナの影響で地域の団体の活動が減少し、希望する団体も減少した。	市内のリハビリテーション専門職や、地域包括支援センターと連携し、派遣事業を調整していく。また、保健事業と介護予防の一体的事業としてもリハビリテーション専門職が関与する方向で調整をしていく。

【自立支援・介護予防のための地域ケア個別会議開催回数】

P41

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	12回	12回	12回	12回	12回	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	計画のとおり、年12回開催した。	高齢者の生活の質の向上を目指すためには、薬や口腔ケアの知識が必要との声があがったため、令和4年度から薬剤師と歯科衛生士の参加を開始した。多様な専門職の参加により、ケアマネジメントの視点の幅が広がったとともに、専門職同士の連携を強めていくことができた。本会議の目的はケアマネジメント力の向上のみならず、積み重ねにより、地域課題等の発見・把握や地域づくりにつなげることであり、令和5年度も事例を積み重ねていく。

(2)介護予防・生活支援サービス事業の推進

①介護予防・生活支援サービスの推進

ウ 訪問型短期集中予防サービス(訪問型サービスC)の実施

【訪問型短期集中予防サービスの利用者数】

P44

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用者数	7人	7人	7人	0人	0人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	サービスの対象となる人(うつ傾向等により通所サービスの利用ができない人)が限られており、利用者数が0人であった。	利用実績が上がらないことが課題。KDBや地域ケア個別会議を活用して、対象者を効果的に抽出する方法を検討していく。

エ 通所型短期集中予防サービス(通所型サービスC)の検討

P44~45

【通所型短期集中予防サービスの利用者数】

P45

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用者数	7人	7人	7人	-	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	検討を行ったが、利用者のニーズをつかみ切れず、令和4年度は実施に至らなかった。	令和5年も開始予定はないが、引き続き開始を検討していく。

オ 住民主体型訪問サービスの実施

【住民主体型訪問サービス事業費補助団体数】

P45

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
立ち上げ型	11団体	9団体	9団体	6団体	9団体	
継続型	9団体	13団体	14団体	7団体	7団体	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	立ち上げ型は目標値を達成、継続型は目標値を下回った。 立ち上げ型は、新型コロナウイルス感染症で立ち上げを見送っていた団体が一齐に立ち上がったため申請数が増加した。継続型は、前年度から申請団体数に増減はなかった。	新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、地域活動が再び活発化する中で、生活支援コーディネーターを中心に相談しやすい関係づくりを積極的に進め、活動を応援していく。

(3)生活支援体制整備事業の推進

①多様な主体間のネットワークづくりの推進

P46~49

評価と課題	よこすか地域支え合い協議会を年1回開催し、各地区支え合い協議会については8地区で開催した。生活支援コーディネーターについて、令和4年度に委託内容を見直した。令和5年度から委託要件を専従とすることで、各地域における地域づくりの推進体制を強化していく。
-------	--

②住民主体による活動の支援

ア 立ち上げ、運営への相談・支援

【住民主体で生活支援を行う団体数】

P50

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
団体数	48団体	50団体	52団体	42団体	44団体	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新規で立ち上がる団体が多かったが、一方で活動者の高齢化などの理由で解散する団体もあり、前年度からの増加は2団体となった。	長く活動を続けている団体では活動者の高齢化が進んでおり、次の世代にどのように引き継いでいくかが大きな課題となっている。次の世代にうまく引き継いでいる好事例の情報提供など支援を行う。

イ 普及啓発の推進

【講演会の開催回数および参加者数】

P51

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回	-	
参加者数	120人	120人	120人	60人	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	令和4年度は、ひくてあまたプロジェクト実行委員会及び横須賀市が主催した「生涯現役フォーラム」(令和4年11月26日)に出展し、地域の取り組み紹介、パネル展示及び来場者の相談対応を行うことで普及啓発を行ったため、講演会は未実施。	令和5年度は、市全域を対象とした講演会の開催ではなく、地域単位での開催を予定。身近な地域で開催することにより、これまで参加につながらなかった方の参加を促したい。

ウ 支え合い実践研修会の開催

P51~52

【研修会の開催回数および修了者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	-	-	
修了者数	70人	70人	70人	-	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	新型コロナウイルス感染予防のため実施せず。	各地域の支え合い協議会の意向も反映しながら、開催の可否を検討していく。

エ 生活支援を実施する団体間の情報交換会・学習会の開催

【情報交換会の開催回数および参加者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	-	1回	
参加者数	65人	70人	75人	-	30人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	対象を近3年以内に新たに活動を開始した団体の活動者に限定したため、参加者数は目標値を下回った。	対象者を様々な形で限定しつつ、実施回数を増やす。

【学習会の開催回数および参加者数】

P52

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	2回	1回	
参加者数	65人	70人	75人	90人	76人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	新たな試みとして1回の開催で複数のテーマの学習会を行ったところ、合計76名の参加があり、目標値を上回った。	複数のテーマを設けることでそれぞれの団体の状況にあったテーマに参加してもらうことが可能となった。一方で時間配分に課題が残ったため、令和5年度は余裕を持った進行とする。

(4)地域福祉促進のための連携・協力

P53~54

評価と課題	<p>①民生委員児童委員との連携・協力について、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。なお、民生委員児童委員の負担軽減、担い手確保のために民生委員児童委員活動のためのQ&A集の作成、民生委員活動のパネル展示などを行っている。今後も引き続き継続していくとともに、さらなる負担軽減、担い手確保に向けた施策を検討していく。</p> <p>②福祉ボランティア、③横須賀市社会福祉協議会、各地区社会福祉協議会についてもおおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>④民間団体および事業者についてもおおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p>
-------	---

(5)ひとり暮らし高齢者に対する支援

①ひとり暮らし高齢者等に対する支援

【ひとり暮らし高齢者登録者数】

P55

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録者数	10,580人	10,660人	10,750人	10,251人	10,110人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	目標値の94%以上を超える登録だった。	登録者数が年々減少している。対象者が減少しているのか、調査方法に原因があるのか、確認する。

ア ひとり暮らし高齢者入浴料助成事業の実施

【入浴料助成事業利用件数】

P55

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用件数	92,000件	90,000件	88,000件	78,534件	74,436件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値の80%を超える利用件数だった。	交付者数、利用率ともに年々減少している。ひとり暮らし高齢者のニーズを把握して、入浴以外の施策も検討する。

イ ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム設置事業の実施

【緊急通報システム設置事業利用台数】

P56

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用台数	3,100台	3,170台	3,240台	3,083台	3,191台	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	目標台数を達成した。	令和6年度中からの次期契約に向けて、機器仕様等の検討を、引き続き進めていく。

第5章2 日常生活や将来に不安を抱える方々への支援

(1) 相談支援体制の強化

P58~59

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。また、令和4年2月から福祉LINE相談を始めた。
-------	--

(2) 地域包括支援センターの機能強化

P60~62

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。ただし、後期高齢者人口が増加していることで人員体制に課題がある。
-------	--

(3) 地域ケア会議の充実

P63~64

評価と課題	「高齢者地域ケア会議」については、医療・福祉関係者等の連携及び複合的な地域課題の検討を行い、地域包括ケアシステムを推進するため、令和3年7月より「在宅療養連携会議」と一体的な実施を始めた。 「包括的ケア会議」及び「地域ケア個別会議」については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	---

(4) 成年後見制度の利用促進

① よこすか成年後見センター(中核機関)の設置

P65~69

評価と課題	成年後見制度に関する相談・支援の実施、地域連携ネットワークの構築、成年後見制度情報交換会(協議会)の開催については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	--

【普及啓発講演会の開催回数および参加者数】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回	1回	
参加者数	70人	75人	80人	23人	50人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	参加者数が少なかったのは、コロナ禍での外出控えが主な要因と考えている。	啓発方法について検討していきたい。

【市長申立件数】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
件数	28件	31件	34件	41件	32件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	成年後見制度の利用が必要にもかかわらず、身寄りがないなどの理由で申立てが困難な場合、積極的に市が関与し、市長申立てを実施している。	今後も適正な市長申立ての実施に努める。

【報酬助成件数(65歳未満の人を含む)】

P69

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
件数	25件	30件	35件	20件	38件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	生活困窮者が適切に後見制度を利用できるよう、また、後見人が適切に職務を遂行できるよう令和4年度から報酬助成要件を拡大した。	今後も、後見人の担い手を支援していく。

②よこすか市民後見人の養成と活動支援

【市民後見人選任数】

P70

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延選任数	延60人	延70人	延80人	延62人	延72人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	毎年10人ずつ選任数が増えており、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。	今後も権利擁護の推進のため、事業の委託先である社会福祉協議会と一体的に進めていく。

【成年後見監督人選任数】

P70

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
延選任数	延28人	延40人	延50人	延31人	延37人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	社会福祉協議会による市民後見人の活動支援が家庭裁判所から高く評価されていることから、おおむね計画書に記載のとおり後見監督人の選任がされたと考えられる。	今後も社会福祉協議会をしっかりサポートしていく。

(5)終活支援の推進

①「わたしの終活(しゅうかつ)登録(終活情報登録伝達事業)の実施

P71~72

【「わたしの終活登録」の新規登録件数】

P72

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規登録件数	200件	200件	200件	96件	111件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	令和4年度に入り、出前トークの依頼が入り始め、増えだしたのは年度後半になってからだったが、あまり登録に結びつかなかった。	出前トークにおいて、実際に役立った事例紹介を積極的に説明するほか、パンフレットの配架場所の再検討を行う。

【出前トークなどの啓発活動回数】

P72

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	25回	25回	25回	0回	48回	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	町内会や地区民生委員からの依頼が年度の後半を中心に多く入った。	引き続き、関係機関に対して事業PRを実施していくほか、開催の都度、横展開してもらえるよう最後にPRを実施する。

②エンディングプラン・サポート事業の実施

【「エンディングプラン・サポート事業」の新規登録者数】

P73

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規登録者数	18人	18人	18人	27人	19人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	令和4年度は、これまで依頼のあった関係機関に対して、あらためて事業PRを実施した。	令和4年度の結果を踏まえ、関係機関に対して次年度以降も定期的に事業の必要性などのPRを実施していく。

(6)高齢者虐待の防止

①未然防止のための取り組み

ア 市民への啓発

【講演会の開催回数および参加者数】

P75

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	1回	1回	1回	1回	1回	
参加者数	180人	180人	180人	40人	54人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍での会場開催で参加者数を制限していた(募集人数90名)ため、見込みに対して参加者数が少なくなったと考えている。	高齢者虐待防止に向けた周知啓発を、引き続き行っていく。

イ 関係機関を対象とした研修等の実施

【関係機関向け研修会の開催回数および参加者数】

P75

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	3回	3回	3回	3回	3回	
参加者数	500人	500人	500人	254人	218人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	コロナ禍でzoom開催としたが、ユーザーIDに上限があり参加者数の制限をかけざるを得なかったため、見込みに対して参加者数が減少したと考えられる。	今後もzoom開催を実施するとともに、動画配信などの手段も含め検討していく。

【高齢者・介護者のためのこころの相談開催回数および延参加者数】

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
回数	35回	35回	35回	19回	12回	
延参加者数	延60人	延60人	延60人	延25人	延17人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	回数としては、年間35回の開催準備を行ったが、コロナ禍での出控えで予約が減ったため回数・延参加者数ともに見込みより減少したと考えられる。	介護されている方だけでなく、大切な方を亡くされ介護を終えた方等も男女問わず気軽に相談できることを周知していく。

②早期発見のための取り組み

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

③迅速かつ適切な対応

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

第5章3 適切な医療・介護体制等の整備

(1)在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

(2)介護人材の確保・定着支援と業務の効率化

①介護施設等の人材育成支援

ア 介護施設を対象とした研修の実施

P87~88

【モニター研修実施施設数】

P88

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
施設数	3施設	3施設	3施設	1施設	0施設	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染予防の観点から施設内での研修が難しかったため。	本研修は、次期計画には盛り込まず、別の人材育成支援策を検討する(令和5年度は予定どおり実施)

イ 地域密着型サービス事業所を対象とした研修の実施

P88~89

【地域密着型サービス事業所向け研修コース数および参加者数】

P89

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	2コース	2コース	
参加者数	40人	40人	40人	7人	9人	

※1コース2日

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	研修の受講希望者が想定よりも少なかったため。	次期計画に向けて、研修内容や実施方法を検討する(令和5年度は予定どおり実施)

②介護ロボットの導入支援

【介護ロボット試用貸出事業所数】

P89

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
事業所数	15カ所	15カ所	15カ所	15カ所	0カ所	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	神奈川県が実施している事業と重複するため、令和4年度より本市単独事業は取り止めた。	今後も本市単独では実施せず、県で実施している事業を案内する。(県の動向を注視しつつ、本市の対応を検討する)

③介護の仕事の魅力発信(介護職員出前講座の実施)

P89~90

【介護職員出前講座およびキャリア教育の開催学校数】

P90

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
学校数	10校	10校	10校	5校	4校	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	出前講座単独では「4校」であるが、1校2コマで実施したため8コマ(予算は10校10コマ)である。また、キャリア教育を実施した学校と合算すると18校となり、指標を達成している。	引き続き、キャリア教育と連携していく。

④外国人介護人材の育成支援

ア 外国人介護従事者を対象とした日本語研修等の実施

【介護についての日本語研修コース数および参加者数】

P90

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	2コース	2コース	2コース	2コース	1コース	
参加者数	14人	14人	14人	12人	9人	

※1コース5日

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	EPA、技能実習生向け研修のうち、技能実習生向け研修は応募がなかったため、実施しなかった。	令和4年度は神奈川県高齢者福祉施設協議会が横須賀市内の施設会員向けに技能実習生の研修を行ったため、応募がなかったと考えられる。上記協議会と開催時期を変えるなど検討していく。 また、技能実習生制度の廃止(制度の大幅な変更)の可能性があるため、国の動向を注視しつつ事業のあり方を検討する。

イ 受け入れ施設職員への研修実施

P90~91

【受け入れ職員研修開催回数および参加者数】

P91

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	2回	2回	2回	1回	1回	
参加者数	8人	8人	8人	1人	3人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	EPA、技能実習生向け研修のうち、技能実習生向け研修の実施を見送ったため、それに伴い開催回数が減った。	令和5年度も引き続き実施する。

⑤多様な機会における介護人材確保支援

P91~92

評価と課題	今後も引き続き開催の周知や後援などを行うことで、介護従事者確保の機会を支援していく。 また、ネパールからの人材受け入れは、新型コロナウイルスにより令和3年度には実現しなかったが、オンライン面接により2名が内定し、令和4年8月に初の受け入れを行った。令和4年は横須賀市・商工会議所・横須賀公共職業安定所が共催で介護就職デイ面接会などを実施している。
-------	--

⑥介護分野の文書にかかる負担軽減

P92

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

(3)高齢者施設等における災害および感染症に対する備え

①災害に対する備えの推進

P93

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

②感染症に対する備えの推進

P93

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

第5章4 認知症施策の推進

(1) 認知症予防の推進

① 早期発見のための取り組み

ア 認知機能評価(ファイブコグ検査)の実施

【ファイブコグ検査回数および検査人数】

P95

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
検査回数	10回	10回	10回	9回	10回	
検査人数	300人	300人	300人	135人	104人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	認知機能検査は高齢者も意識が高いところであるため、人気がある。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の時期と重なったこともあり参加者が少なかったとみられる。	ニーズに応じて周知方法を考案していく必要がある。高齢者が個々を知っていただき、認知症について学び、考えていける環境づくりに努めたい。

イ もの忘れ相談の実施

P95~96

【もの忘れ相談会開催回数および参加者数】

P96

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	24回	24回	24回	22回	23回	
参加者数	72人	72人	72人	43人	54人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	24回開催準備を行ったが、当日キャンセルで中止となった日があった。	医療機関の受診をするまでもないと思われていたり、受診することのハードルが高い方が気軽に相談できるようにしている。今後も続けて周知していきたい。

②認知症予防のための取り組み

ア 認知症予防講演会の開催

【認知症予防講演会開催回数および参加者数】

P96

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	1回	1回	1回	1回	-	
参加者数	200人	200人	200人	156人	-	

自己評価	評価理由	課題と対応策
E	令和4年度に組織改正があり、介護予防を含めた健康づくりの普及啓発として、健康増進事業の中で実施したため、本講演会は開催しなかった。	認知症予防を含め高齢期になってから介護予防の取り組みについて普及啓発するのではなく、早期から総合的な健康づくりや介護予防について関心もてるよう、広く普及啓発をする。また、高齢者への取り組みとして認知症予防教室は継続して実施する。

イ 認知症予防教室の開催

P96~97

【認知症予防教室コース数および参加者数】

P97

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
コース数	8コース	8コース	8コース	8コース	8コース	
実参加者数 (延参加者数)	240人 (延1,200人)	240人 (延1,200人)	240人 (延1,200人)	123人 (延550人)	75人 (延336人)	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	前年度と比較して、広報等での周知が不足していることが参加者数へ影響していると考えられる。	次年度は新型コロナウイルスに関することも緩和されるので、周知方法を見直し継続して実施する。

(2) 認知症高齢者・介護者の支援の充実

① 認知症初期集中支援事業の実施

P98～99

【認知症初期集中支援チーム新規相談件数】

P98

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
新規相談件数	60件	65件	70件	38件	14件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	早期発見、早期対応につなぐことができなかった可能性が考えられる。	認知症支援での対応困難ケースが増えている。認知症が重度化するまで相談などにつながない印象がある。人と人とのつながりのほか、認知症についての理解を一層進めつつ、地域包括支援センターとの連携・情報共有をより進めていきたい。

② 横須賀にこっとSOSネットワークの周知

【横須賀にこっとSOSネットワーク事前登録者数】

P100

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
登録者数	100人	100人	100人	121人	148人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	令和4年に認知症等行方不明者搜索の情報提供を強化したことで、SOSネットワークそのものが改めて周知されたと考えている。	見守りとしての役割が担えるように、事前登録の推進、情報発信を引き続き実施していく。

③認知症の各種相談・支援の実施

ア 認知症相談窓口の設置

【横須賀市における電話および窓口の認知症相談件数】

P101

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
相談件数	2,000件	2,000件	2,000件	2,063件	1,848件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。	認知症以外の状況も合わさった複合的な相談が増えており、相談件数の把握方法を検討する必要があると考えている。

イ 認知症ケアパスや認知症情報小冊子の発行

【認知症ケアパス(にこっとパス)および認知症お役立ちBOOK配布数】

P101

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
にこっとパス 配布数	5,000部	5,000部	5,000部	3,020部	4,575部	
お役立ち BOOK配布数	3,000部	3,000部	3,000部	4,223部	2,615部	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	おおむね計画どおりとなった。お役立ちBOOKについては、令和5年度お買い物編を中心に、市内スーパーマーケットや商店街へにこっとSOSネットワークの周知と合わせて配布を行った。	認知症共生社会に向けては、医療・介護の専門機関だけではなく、住民や一般企業の方への周知が必要不可欠である。認知症サポーター養成講座等の開催とともに今後も普及啓発を強化していく。

ウ 認知症高齢者介護者の集いの開催

P101

評価と課題	評価理由
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

エ 多職種セミナーの開催

P101

評価と課題	評価理由
	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。

(3) 認知症共生社会に向けた地域づくりの推進

① 認知症サポーターの養成

【認知症サポーター養成講座養成者数】

P102

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	1,000人	1,000人	1,000人	705人	515人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	新型コロナウイルス感染症流行により、企業や地域内での講座開催について自粛傾向にあり、目標達成できなかった。	昨年度末頃から感染症の流行も落ち着きつつあり、講座の依頼も増えてきつつある。令和5年度は、地域住民を対象として地域に出向いた講座開催を積極的にすすめていきたい。

② 認知症オレンジパートナーの養成

【認知症オレンジパートナー養成者数】

P102

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
養成者数	25人	25人	25人	25人	20人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	新型コロナウイルス感染症流行により、申込者は多かったものの、直前のキャンセルが多く目標達成とはならなかった。	講座の開催だけにとどまらず、地域で活動する場へつなぐ支援も行っていきたい。

③ チームオレンジの構築

P102

評価と課題	令和4年度新規チームの立ち上げはできていない。認知症カフェは少しずつ増えてきているものの、本人・家族をつなぐという点で周知に課題がある。認知症カフェなど地域活動の周知を強化し、チーム結成に向けて認知症地域支援推進員を中心に推進していく。
-------	--

④ 認知症カフェへの支援

P103

評価と課題	新型コロナウイルス感染症流行により活動休止しているカフェが多いが、令和4年度2か所の新規カフェがオープンした。またカフェ同士をつなぐ取り組みとして、カフェ連絡会を初めて開催した。令和5年度も横の連携を強化しながら、認知症カフェの活動を盛り上げていきたい。
-------	---

⑤ 「よこすかオレンジLINE」を活用した地域づくり

P103

評価と課題	周知啓発については、おおむね計画書に記載のとおり実施した。行方不明者の捜索については、情報発信先に認知症サポーター、オレンジパートナーだけでなく高齢・介護に興味がある方も追加し、ネットワークを拡大した。
-------	---

(4)若年性認知症の支援、社会参加支援

P104~105

評価と課題	若年性認知症の理解のための啓発、本人発信の支援、若年性認知症コーディネーターとの連携についてはおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 若年性認知症のつどいの開催については以下のとおり。
-------	--

【若年性認知症のつどい開催回数】

P105

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催回数	6回	6回	6回	5回	6回	

自己評価	評価理由	課題と対応策
A	計画のとおり年6回開催した。	新型コロナウイルス感染症対策のため、開催時間を短くしての実施となっている。令和5年度は感染症の状況を注視しつつ、開催時間を従来時間に戻し、1日単位でゆっくり交流する時間を設ける等検討したい。

【若年性認知症のつどい参加者数】

P105

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
本人・家族	120人	120人	120人	55人	46人	
オレンジパートナー・支援者	120人	120人	120人	79人	85人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	計画どおりに開催をしたが、本人の病状の進行や施設入所等による理由により、本人・家族の参加者が減っている。 また、新型コロナウイルス感染予防の観点から全体的に参加自粛の傾向にあったため、目標達成できなかった。	本人・家族を本会につなぐことができるよう、若年性認知症コーディネーターと連携をとっていく。また、養成したオレンジパートナーが支援者として関わることを周知していく。

第6章1 高齢者の在宅生活と住まい方の支援

(1)在宅生活の支援

①地域資源情報の収集と周知

P107

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

③本市独自の在宅支援

ア 紙おむつ支給事業の実施

【紙おむつ支給事業利用人数】

P110

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	3,680人	3,840人	3,980人	3,020人	3,354人	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	目標値に届いていないものの、目標値のおよそ87%の利用者数であった。	国から第9期に向け事業の廃止・縮小を求められているため、対象要件等について、引き続き検討を進めていく。

イ 寝具丸洗い事業の実施

P110~111

【寝具丸洗いサービス事業利用人数と利用延件数】

P111

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	1,820人	1,850人	1,890人	1,455人	1,033人	
利用延件数	3,660件	3,750件	3,820件	2,968件	2,465件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
C	利用実人数・利用延件数が平均で60%以上の利用実績だった。	令和5年度から利用回数を減らした。経過を観察し、必要に応じた見直しをさらに検討していく。

ウ 出張理容等サービス事業の実施

【出張理容等サービス利用人数と利用延件数】

P111

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
利用実人数	1,950人	1,970人	1,990人	1,758人	1,579人	
利用延件数	7,470件	7,550件	7,620件	6,274件	5,518件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
B	利用実人数・利用延件数が平均で76%以上の利用実績であった。	出張可能な理容師、美容師が減っているため、運用の見直しについて検討する。

(2)住環境の整備

①居住環境の整備

ウ 耐震診断補強工事等の助成

P114

評価と課題	令和4年度に横須賀市耐震改修促進計画を改定し、新たな目標を設定した。
-------	------------------------------------

②住まい探しの支援

P114~115

評価と課題	<p>「高齢者・障がい者等の住まい探し相談会」は、令和4年度から「高齢者・障がい者・子育て世帯等の住まい探し相談会」に名称を変えて実施(内容や対象者には変更無)し、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>(相談会の対象者は、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律(住宅セーフティネット法)に基づく「住宅確保要配慮者」(高齢者・障がい者・子育て世帯等)としている。)</p> <p>なお、令和4年度は12回開催した。</p> <p>不動産事業者等への協力依頼、民間賃貸住宅を活用したセーフティネット住宅制度については、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p>
-------	---

③市営住宅における支援

P115

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

第6章2 防犯・防災体制の整備

(1)防犯への取り組み

①地域防犯リーダーの養成と防犯活動物品の支給

P119

評価と課題	令和4年度の地域防犯リーダー養成講座及び、防犯活動物品の支給は、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	--

②事業者、警察と市の三者防犯協定の締結

P119

評価と課題	令和3年度から、協定は事業者と市の二者協定となっているが、その他はおおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	---

③「よこすか防犯あんしんメール」の配信

P120

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

④迷惑電話防止機能付き電話機等購入費の補助

P120

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 なお、当該事業は市内在住の70歳以上の方を対象とし、購入金額の2分の1(上限額5,000円)を助成するものである。 令和2年度は10月1日～令和3年1月29日、令和3年度は6月1日～令和4年1月31日 令和4年度は5月10日～令和5年1月31日の期間で申請を受け付けた。
-------	---

(2)消費者被害の防止

①消費生活相談の実施

P121

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

②市民への周知啓発

ア 悪質商法被害防止講座の実施

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

イ ラジオ番組放送による啓発

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 消費者被害未然防止キャンペーンの実施

P122

評価と課題	令和3年度からは費用対効果を考慮して啓発方法を変更し、公式ツイッターやSNSなどを通じて啓発を実施している。
-------	--

エ 「よこすか暮らしのニュース」、「よこすか消費生活レポート」の発行

P122

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

オ 消費者啓発用回覧板の配布

P122

評価と課題	平成28年度に各町内会長に回覧板の要否について照会し、必要と回答したすべての町内会、自治会に配付した。その後は追加配付や新たな配付の希望があった町内会、自治会にその都度配付を行っており、おおむね計画書に記載のとおりである。
-------	---

(3)災害等に対する備え

①災害時要援護者に対する支援体制の整備

P123

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

②福祉避難所の開設

P124

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

③自主防災組織の活動支援

ア 自主防災組織連絡協議会の開催

P124

評価と課題	令和4年度は、役員会は実施したが、参加人数を考慮して総会は実施せずに、全町内会・自治会長あてに関係資料の送付に留めた。
-------	---

イ 各種防災器材等の購入補助

P124

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 自主防災指導員育成講習会の開催

P125

評価と課題	令和4年度は、参加人数を縮小して、感染対策を講じながら講習会を実施した。
-------	--------------------------------------

④防火意識の普及啓発

ア リーフレット等を活用した普及啓発

P125~126

評価と課題	リーフレットのポスティングや各小中学校及び京浜急行電鉄構内へのポスターの掲示により防火意識の普及啓発活動を行った。 また、大規模商業施設でのイベントを実施し、幼少期から防火意識が根付くよう活動した。 課題として、対象者が限定されてしまうため、ホームページやSNSを利用し、防火対策等を発信していきたい。
-------	---

イ ひとり暮らし高齢者等の防火訪問の実施

P126~127

【ひとり暮らし高齢者宅防火訪問件数】

P127

区分	見込み			実績		
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
訪問件数	1,500件	1,500件	1,500件	471件	305件	

自己評価	評価理由	課題と対応策
D	実績件数は見込み件数よりも少ないが、火災予防リーフレットの投函、高齢者を対象とした講習に参加し防火広報を実施した。	対面、訪問以外の火災予防広報の検討

⑤予防救急の普及啓発

P127

評価と課題	主に講習会開催時に普及啓発してきた。新型コロナウイルス感染拡大により中止となった講習会もあったが、おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	---

⑥救急車の適正利用の推進

ア 救急受診ガイドの発行

P128

評価と課題	上記のとおりおおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------------

イ 患者等搬送事業者の周知

P129

評価と課題	上記のとおりおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 なお、ストレッチャー及び車椅子認定事業者は14事業者に増加した。
-------	--

(4)交通安全の推進

①高齢者交通安全教室の開催

P130

評価と課題	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により高齢者交通安全教室は3回の開催となった。
-------	--

②交通安全運動の実施

P131

評価と課題	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止していたイベント等が再開し始めたものの、コロナ禍前より啓発物品を配布する機会が少なかったが、各季運動期間における町内会等への啓発チラシの配布等を行うことにより、交通安全啓発を行った。
-------	---

③交通安全活動物品の支給

P131

評価と課題	おおむね計画書に記載の通り実施できた。
-------	---------------------

第7章4 介護給付適正化の推進

(1)要介護認定の適正化

①認定調査の適正化

ア 介護認定調査員研修の実施

P167

評価と課題	計画書に記載のとおり実施できた。 認定調査員研修について、県主催の研修(2回)を関係事業所に案内するほか、市主催の研修(現任研修3回、新任研修2回)を開催した。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、認定調査員研修の開催方法をZOOMによるリモート研修に切り替えて実施) 実施後アンケートの理解度については、3回とも「理解できた」「おおむね理解できた」が100%であった。
-------	---

イ 認定調査員通信の発行及び業務分析データの活用

P167

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

ウ 市調査員による調査票の全件チェック

P167

評価と課題	計画書に記載のとおり実施できた。
-------	------------------

エ 迅速な調査の実施

P167

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 調査の効率化を図るため、令和4年12月より認定調査モバイルシステムを導入した。
-------	---

②審査・判定の適正化

ア 介護認定審査会合議体の平準化

P168

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。
-------	----------------------

イ 主治医意見書の早期回収

P168

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 受診がない、検査結果が出ていないなど、各ケースの状況によっては早期提出を促してもなお提出が遅れる場合も見受けられるが、少しでも早期の認定につなげるために継続して取り組む必要がある。
-------	--

ウ 事務の適正化・効率化

P168~170

評価と課題	簡素化についてはおおむね計画書に記載のとおり実施できた。 更新申請の有効期間の延長については令和5年度当初から実施するための準備を行った。
-------	--

(1)介護給付の適正化

①ケアマネジャーの支援

ア ケアプラン点検の実施

P171

評価と課題	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>ケアマネ事業所10か所(1人ケアマネ、今まで実施したことがない事業所、頻回な生活援助のケアプランの届出をした事業所、国保連より給付実績を活用した情報提供を受け選定した事業所)について、事前に作成したケアプランや関係書類を提出していただき、当日、意見交換や相談を行った。10事業者10人のケアマネジャーからおおむね好評を得られるとともに、「自分のケアプランを振り返る良い機会となりました。」などの意見もあり、ケアプランの振り返りの機会となった。</p> <p>ケアプラン点検を受けた事業所の効果が図れないことが課題と考えている。運営指導などと連携して、ケアプランを確認していく。</p>
-------	---

イ ケアプラン点検(集団検討会)の実施

P171

評価と課題	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>2回開催(リモート、1回2時間で当日に2回)</p> <p>テーマ:認知症のある方の課題分析、自立支援に繋がる目標の設定、必要なサービスを組み立てる際の考え方について(101事業所参加)</p> <p>今年度からの取り組みとして、ケアプラン集団検討会に不参加の場合は、来年度のケアプラン点検の対象事業所となる場合があることを周知した。その結果、参加事業所数は昨年度と比較すると微増であった。アンケートの結果では、おおむね参考になったとの回答であった。</p> <p>今年度はオンラインでのグループワークを取り入れた。ファシリテーターを確保できなかったため、それぞれのグループに分けたときに無言のままリーダーが決まらないグループが発生するという課題もあったが、意見交換ができる場について、よかったという意見も多かった。</p>
-------	---

ウ 新任ケアマネジャー研修の実施

P171

評価と課題	<p>計画書に記載のとおり実施できた。</p> <p>前年度のアンケート結果を参考にテーマを決め、リモートで研修を実施(24名参加)。</p> <p>参加者の項目ごとのアンケートでは、「参考になった」との回答が76%であった。</p> <p>リモートの研修のため限られた時間の中で、テーマを絞って説明するため、「専門用語が分かりにくい」との意見もあった。「要介護認定について」は業務を振り返りながら学べる機会となり、「生活保護法の介護扶助」については、実務で経験していない分、理解に時間がかかったと思われるが、制度として大まかに知ってもらうだけでも今後のケアマネ業務に活かせると感じた。</p>
-------	---

<p>評価と課題</p>	<p>計画書に記載のとおり実施できた。 スキルアップ研修(1回)及び管理者研修(2回)を行った(すべてリモート)。テーマと参加者は以下のとおり。 スキルアップ研修:ケアプランの基本である、介護サービス計画書第1表から第3表について、書き方や考え方のポイントについて(59名参加) 管理者研修①:BCPセミナー ~簡易シートを用いた運用~(89事業所参加) 管理者研修②:現場で活用できるICTセミナー(47事業所参加) スキルアップ研修、管理者研修第1回、管理者研修第2回すべての参加者アンケートでは「参考になった」「まあ参考になった」を合わせると100%であった。 管理者研修において、事前アンケートを実施し、講義中に回答する形式にしたところ、「前もっての質問事項の提示、研修中にその回答がなされたのでわかりやすかった。」との意見があった。</p>
--------------	---

②住宅改修の適正化

ア 事前・事後の審査

<p>評価と課題</p>	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 令和4年度の審査件数1,440件(全件)、現地調査件数2件(疑義があった1件について現地調査を行い利用者の利用状況、意向を確認) 現在、疑義のあるものについては、市職員がケアマネジャーや事業所に確認したり、現地調査を行っているが、現地調査を含め、理学療法士や建築の専門家の確認が必要と考えている。</p>
--------------	--

イ 介護保険住宅改修研修会の実施

<p>評価と課題</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。 住宅改修受領委任払い登録者やケアマネジャーへの制度の周知確認、及び適切な住宅改修の知識の習得の機会として、開催頻度を含め開催方法を検討していく必要がある。</p>
--------------	---

③福祉用具貸与の適正化

<p>評価と課題</p>	<p>おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの現地指導(令和4年11月~令和5年2月実施、8事業所) 軽度者への福祉用具の貸与について、説明が行えた。又、適切な貸与かの確認もできた。 軽度者への貸し出しの疑義について、相談票を提出させ、市の職員が適切か不適切かを判断している。確認方法は、主治医の意見書などからである。 本来は、理学療法士などが在宅を訪問して判断する必要があると考える。</p>
--------------	--

④縦覧点検・医療情報との突合

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 点検の結果、国民健康保険団体連合会に委託している分で313件、市で別途点検している分では、軽度者レンタル8件、入所退所15件を返還させた。点検項目については、必要に応じて変更や追加を行いたい。
-------	--

⑤介護給付通知の送付

P173

評価と課題	おおむね計画書に記載のとおり実施できた。 令和4年12月15日発送 発送数:15,007通 送付期間:令和4年7月～9月までの給付実績 介護保険制度啓発のための説明を分かりやすく作り直す必要がある。
-------	---